

見たなら、たゞこれ一場の兒戯たるに過ぎぬ、されど同じ他の小兒輩が  
 小事に齷齪として、徒らに小名小利に一生を疲らすよりは、聊か其の規  
 模大いにして稍々壯快なりともいふべきであらう。  
 然れども能く天地の間に塞がり、頂天立地、萬物を以て己れが有となし、  
 浩蕩として神遊するものに比べたならば、天地宵壤の差あること勿論だ。  
 彼れの此に劣ることは言はずもがなである。  
 之れを要するに、一體道を悟ると云ふのも、人生を解脱すると云ふのも。  
 つまりは、自己を悟り、自己を解脱するにあるのだ、心外に法はない、  
 門より入るものは家珍ではないのだ、つまり自己と外界と、主観と客観  
 の間に存するところの、一切の矛盾を除去するにある。先づ第一回には  
 一切の差別的觀念をサラリと放棄して、一大平等の絶對界に投入するに  
 ある、而して其の後ち、即ち悟後の活動となつて、再び差別界に出で來  
 つたならば、凡べて宇宙人生に對して、何等の矛盾も、何等の撞着も、

將た何等の衝突も、全く空亡に歸してしまふ。斯る境界に達したならば、  
 全世界の全く一大樂園なることを發見し、この安心の下に眞の樂天的生  
 活は湧出して來るのである。否、この眞境には樂といふものをも忘却し  
 去つてしまふのだ。何となれば樂は苦に對するもので、即ち相對的であ  
 つて、絶對界にはなきものである。悟道の境界、即ち解脱の状態は絶對  
 の發顯である、否、絶對の大自然境である。

乾<sup>ハ</sup>以<sup>テ</sup>易<sup>ヲ</sup>知<sup>リ</sup>。坤<sup>ハ</sup>以<sup>テ</sup>簡<sup>ヲ</sup>能<sup>ク</sup>。易<sup>ナ</sup>則<sup>チ</sup>易<sup>ヲ</sup>知<sup>リ</sup>。簡<sup>ナ</sup>則<sup>チ</sup>易<sup>ヲ</sup>從<sup>ヒ</sup>。  
 易<sup>ヲ</sup>知<sup>ル</sup>則<sup>チ</sup>有<sup>リ</sup>親<sup>ヲ</sup>。易<sup>ヲ</sup>從<sup>ヒ</sup>則<sup>チ</sup>有<sup>リ</sup>功<sup>ヲ</sup>。有<sup>リ</sup>親<sup>ナ</sup>則<sup>チ</sup>可<sup>ク</sup>久<sup>ク</sup>。有<sup>リ</sup>功<sup>ナ</sup>則<sup>チ</sup>可<sup>ク</sup>大<sup>ナル</sup>。  
 功<sup>ナ</sup>則<sup>チ</sup>可<sup>ク</sup>大<sup>ナル</sup>。可<sup>ク</sup>久<sup>ク</sup>則<sup>チ</sup>賢<sup>ナル</sup>人<sup>ノ</sup>之<sup>徳</sup>。可<sup>ク</sup>大<sup>ナル</sup>則<sup>チ</sup>賢<sup>ナル</sup>人<sup>ノ</sup>之<sup>業</sup>。  
 業。易<sup>ヲ</sup>簡<sup>シ</sup>而<sup>テ</sup>天<sup>下</sup>之<sup>理</sup>得<sup>テ</sup>矣。

(易 經)

## 第二十章

### 禪の妙趣

言詮不及意路不到……彼岸に到るの船筏……神通妙用無碍自在  
 ……文藝に、繪畫に……野狐禪……同胞の心機一轉……衆流を截  
 断……盛乾坤大地……深遠美妙の詩想……千古不朽の神品……佛  
 法の總府

上來幾多の葛藤を截断したが、達人から之を見れば皆これ癡人の閑言語に過ぎぬであらう。禪の妙趣は言詮不及意路不到である、之を口にし、筆にすれば、既に第二義第三義に墮ちて仕舞ふ、しかし船なくては河海を渡ることが出来ぬ、梯子なくては樓に上ることが出来ぬ、吾人がこゝに葛藤を打開し閑言語を弄した所以は或は彼岸に到るの船筏、高閣に上るの梯子ともならばやとの婆心から斯く饒舌の罪過を犯したのである。要するに禪の要旨は**自他平等の大我**となり、生死關頭を透脱し、宇宙の

眞理と融合し、萬有を一心に包みて**神通妙用無碍自在の眞趣**に體達するのである。乃ち此の眞趣に體達するものは其の心機を活潑々地に轉じ、各方面に活動することを得るのである。此の心機を稱して禪機とはいふのだ。即ち此の妙用は政事に現はれ、軍事に現はれ、劍道に現はれ、將た茶道に、香道に、文藝に、繪畫に、其の形は多種異様なるも其の玄妙の神域に入るや、一として禪機に契合し、禪の眞趣に歸せざるはないのである。即ち茶禪一味とか、俳禪一味とか**禪劍一致**とかいふ言葉もある所以である。

されど此の禪機は中々容易には得られぬ、此の妙趣にはなかく入りがたい。古來の英雄神仙、祖師高僧は眞に此の機趣を得たのであつた。近來の禪僧禪者と稱するものは自ら此の禪機の蘊奥に入り、神趣の妙域に到つたと稱してゐるが、多くはこれ野狐禪である、贗物である、可惜許眞に之を得たるものは寥々として晨星の如くである。否、其の一點の星

すらも見えぬ勝ちなのは心細い。

今や幸ひに我同胞は心機一轉して、此の禪機を得んとし、此の妙趣を味はんと渴仰し來つたやうである。これ國民發展の兆と謂はざるを得ん、苟くも將來東亞の大權を握り、五億の蒼生を左右するの大盟主たらんと欲せば、宜しく此の禪機の妙用を自得して宇宙を吞吐し、衆流を截斷する底の氣宇を養はねばならぬ。若し武將軍人にあつては禪機の奥妙に體達して軍機の玄微に活用し、乾坤を踏破し、五洲を振盪せしむる底の勇なくてはならぬ。宗教家にあつては自他平等の大慈悲心を發し、上求菩提下化衆生の一念を持して、盡乾坤大地これ箇の解脫門と徹見し、能く此の禪機を活用し、能くこの妙趣を煥發し、與奪縱横、殺活自在、應物現形諸々身處々現の活機輪を轉じなければならぬ。其の他文藝に、美術に、各々其の方面に向つて此の禪機を活用し、この眞趣に悟入して、以て、其獨特の大手腕を揮ひ、深遠美妙の詩想を煥發し、入神の妙技は鬼

神をも感動せしむべく、千古不朽の神品を作り出すやうに至らなければならぬ、是に於いて初めて世界的大國民たるの自信に背かぬことを得るのである。

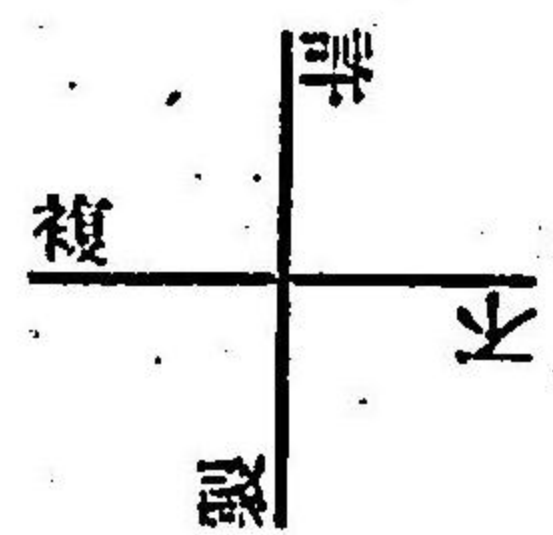
嗚呼、禪や廣大なるかな、古徳は曰く『禪は佛法の總府なり』と。吾人は謂はんとす、禪は諸道の神府、諸趣味の源泉である。されば苟くも諸道の神域、諸趣味の蘊奥に體達せんと欲するものは、實に斯の參禪工夫を措いて、萬法俱通の良法は他にはないのだ。これ吾人が自ら揣らす本書を祖述して同胞諸君にも勸奨する所以である。

禪と修養了

軀殼外の虚は、便ち是れ天なり。天は吾が心なり。心の萬有を葆含すること、是に於てか悟るべし。故に血氣有るものより草木瓦石に至るまで、其の死を視、其摧折を視、其毀壞を視れば、則ち吾が心をして感傷せしむ。本と心中の物たるを以ての故なり。若し先づ慈有りて心を塞げば、則ち心虚に非ず。虚に非れば、則ち頑然たる一小物のみ、然り天體に非るなり。便ち骨肉とも即ち分隔せん、何ぞ況んや其他をや之れを名附くるに小人を以てす、亦理ならずや。

(大鹽中齋)

明治四十一年一月十日印刷  
 明治四十一年一月十三日發兌



發行所  
 發行所  
 大賣捌

東京市本郷區本郷二丁目  
 電話下谷一三三八番  
 振替郵便貯金口座一七一七番  
 東京市京橋區川間堀二丁目  
 (市京東) 嵩山房 北陸館  
 至前上東京 東海堂  
 誠田京屋 林平堂  
 堂川屋 松堂  
 (都京阪大) 吉岡書店  
 若松村文海堂  
 林文海堂

著者  
 發行所  
 印刷者兼  
 印刷所

定價金五拾錢

釋 悟 庵  
 伊 東 芳 次 郎  
 伊 東 靜 子  
 東京市本郷區本郷一丁目九番地  
 東京市京橋區三十間堀二丁目四番地  
 東京市小石川區久堅町百〇八番地  
 博文館印刷所  
 東 亞 堂 書 房  
 東 亞 書 院  
 (京都市) 寶文館支店  
 (名古屋市) 川瀬代助  
 (名古屋市) 星野文屋堂  
 (名古屋市) 菊竹書店  
 (名古屋市) 博文社書店  
 (熊本市) 長崎書店  
 (大分市) 甲斐治平  
 (廣島市) 積善館支店  
 (高知市) 宮脇開益堂  
 (和歌山市) 宮井宗兵衛

破魔禪君新著

近刊 偉人修養史

全一冊(起稿中)

堀内新泉君新著

近刊 發奮の動機

全一冊(起稿中)

黑岩周六君序

增補 冥想論

十版

附 坐禪論

加藤咄堂君著

戦後我國は一躍世界の舞臺に一大躍歩を試み、國民品性の修養を要する今日より急なるはなし、本書は著者が該博の識と流麗の筆を以て、品性修養の根底たる冥想を各種の方面より論究し、獨坐靜思の快感を説き、其理論と方法を詳叙し、進んで禪の奧秘を闡明して、膽力養成の法に及ぶ。加ふるに冥想雜感の一篇は、實に君が半生の思想史とも稱すべき物にして、奇想縱橫、趣味滿幅世の修養に志あるの士本書を讀まば曉悟する所必や大ならむ。▲菊判全二冊：新式美術的製本：定價五十錢：郵税六錢

幸田露伴君序

高評 冥想 雜感 朝思暮想

再版

加藤咄堂君著

朝に思ひ、暮に想ふ。朝に思ふの時には希望のほゝるみあり。暮に想ふの時、誰か追悔の涙なからむ。本書は咄堂加藤氏が、行住の間、冥想の餘、事に屬し、物に擬し、深刻の同情と、高遠なる理想とを寓して、吾人が修養處世の妙諦を指示せられたる物。其詞藻の華麗なるは、燦として宛かも百花の芳を競へるが如し。之を現代文章の模範と稱すとも亦溢美の言にあらじ。苟も文を談じ、修養を口にするの士は坐右一本を備へざるべからず。▲金二冊：定價各冊卅錢：郵税各冊四錢：合本上製七十五錢：郵税八錢

加藤咄堂君著

新刊 奇聞話し草

本書は加藤先生が吾人が趣味性の啓蒙を旨とし、其該博非凡の識を以て、古今に亘り、東西兩洋に及びて、興味ある諸種の奇聞逸話を輯集し、之を行るに君が輕快渾逸の筆致を以てせられたるものにして、一體抱腹絶倒に堪へざらざるものあり、翫然として襟を正さしむるものあり、又凜然として中夜馬を天山に驅るの志を起さしむるものあり、娛樂の裡に教訓を與へ、談笑の間に天來の氣呵に觸れしむ。人格修養の餘師として又文章演說の材料として將た又社交の談柄として眞に机上の好友、袖中の清涼劑たるに背かず。▲袖珍全一冊：体裁瀟洒：定價 錢：郵税 錢

渡邊國武氏題詞 三宅克己氏書  
黑岩周六氏贊論 詠齋藤松洲氏書  
佐々木信綱氏題

### 好評 八版 動中靜觀

在米國茅原華山君著

華山先生の文は世既に定評あり西園寺陶庵侯は「恰も蘇老泉の文を讀むが如し」と稱せられ渡邊無邊老侯は「山淺間、物産生絲、湖水諏訪、文章華山、武官福島」と謳はれ而して黒岩涙香先生は實に「其趣味の博きこと時人及ぶ者少し」と贊論せられたり本書は先生の博識の思想史にして又觀察史也篇を分つこと八其趣味の多様なる其文詞の流麗なる近時出版界の一異彩たり敢而大方の瀏覽を俟つ。

▲洋装全一冊：三百二十餘頁：定價四十錢：郵税六錢▼

### 德富蘆花君序

### 好評 再版 時文 理趣情景 評論

角田劍南道士君著

健實の想、莊麗の文、現今文壇評論家の泰斗として、よく理を盡し、情を察するものは、實に我劍南道士に非や本書は君が、社會、文藝、思潮、人物等に關する獨特の評論に、自然、人生、美術、哲理等に對する隨時の感想文、美文等を加へ、風雲の氣、兒女の態兩つながら併せ得たるものにして、近時文壇の大勢を知らんと欲する者の看過すべからざる快著也。

▲洋装全一冊：体裁開雅：定價四十錢：郵税六錢▼

宮内大臣田中光顯氏題字  
子爵 渡邊國武氏手簡  
故 原抱一庵氏序

### 好評 再版 賜天覽 瑤琴

龜谷天尊君著

本書は天尊龜谷氏が、其該博超凡の識を以て、宇宙の萬象を達觀し、我が胸裡の琴線に觸れて流露せし筆の跡を、輯めて高雅なる一冊子となし長くも、聖上 皇后兩陛下乙夜の覽に供し奉りたるものにして、詩歌あり、紀行あり、漫録あり、日本新聞は「苟も天尊を知らんとするものは必ず一讀すべき文字なり」と稱し、毎日新聞は「讀者をして感殆ど窮りなからしむ」と言ひ、二六新聞は「野趣饒き文字もありて頗る多方面なり」と評せり。

▲袖珍全一冊：五百餘頁頗美製本定價四十五錢：郵税六錢▼

文學士武島羽衣君序

### 好評 再版 作歌の葉

志賀華仙君著

武島先生の序に曰く「細やかにして煩はしからず、心得易くして卑しきに流れず、この道の隈々人の迷ふべき所々を説き明らめたるは、げにをばろげならぬいたづきといはまし」と、又讀賣新聞は「叙述簡略初學者の好參考書也」と評せり。

▲新形全一冊：体裁優美：定價貳拾五錢：郵税四錢▼

東京開成中學校國語及漢文講師 佐藤仁之助君著

### 新案 百人一首通解

### 寸珍新形体裁典雅

小倉百人一首を、頭字に據りてあいうえね順に排列し、ごくわかり易く解釋した。百人一首を覺えるためにも、亦和歌を習ふ人の參考にも至つて便利な可愛い本！年末歳首の御進物用などには、外に類なき適當品です。

▲全一冊壹百餘頁：定價十錢：郵税參冊貳貳錢▼

東京開成中學校講師國文法專攻 佐藤仁之助君著

### 新刊 日本文法解義

●本文六最新式印刷 ● 號活字

本書は佐藤先生が、從來文法書徒らに多岐多様にして煩瑣にのみ流れ、善く要を撮り、綱を掲げ、二讀直ちに其要領を會得して實際の活用に至るもの鮮きを概し日常教授上の實驗を基礎とし數年間に瀾りて慘憺の經營を費されたる結果從來に類例なき新式を以て編纂せられたる新著にして且附する各種専門學校入學試験問題并に教員檢定試験問題を以てし一々其解答の方法を示されれば之を受験準備の參考書として、將又中學上級及び補習用等として參考せられれば少くして得る處必や多きを得む。

▲洋装全一冊：紙質佳良：定價四十五錢：郵税四錢▼

東京開成中學校國語及漢文講師  
佐藤仁之助君著

受驗  
國語漢文要語詳解

●合本特製 定價壹圓 郵稅五錢●

東京開成中學校國語及漢文講師  
佐藤仁之助君編  
漢字異同辨 及用法

好評  
再版

東京開成中學校國語及漢文講師  
佐藤仁之助君校補

增訂  
國語異同辨

東亞堂編輯所編

本書は文學博士黒川眞頼先生の高足として、國語漢文官語學の造詣深き佐藤仁之助先生が、従來東京開成中學校に在りて、本科目の教授を執らるゝ傍ら、多年の實驗に基づき、各高等學校試驗問題及び教員檢定試驗問題等々參照して、中學程度より以上各種專門學校入學受驗者教員檢定受驗者諸君等の參考に供せむため、特に數年の歳月を費し、博く各書に涉覽して單語、成句、故事、熟語等の中、須要難解の語句を採り、一々明快なる解釋を下されたるものなり、殊に國語の如きは、意義の解釋上必要なりと思はるゝものには、其語原を註記し、尙其意義の變遷あるものは條を分ちて註釋し、更に一々書附に微して其文例を掲げ、且梵語等の外來語より轉じたるものには、從來江湖に散在せる此種の音類中未だ付て其比をなせる處なり、又毎語の排列は之をいふは、類にして、幼時より「いろは歌」に慣らされたる學生諸子の索出に便し、且別に五十音順索引を附して、兩者孰れにても容易に搜索するを得らるゝが如き、如何に其便益の好著なるかを知らるゝに足るべし。

▲國語の部……全一冊三百八十餘頁……定價四十錢……郵稅八錢  
▲漢文の部……全一冊三百廿餘頁……定價卅五錢……郵稅六錢

▲寸珍クローズ洋裝全二冊三百零五頁定價貳十錢郵稅貳錢

本書は國語の中に於ける同字同音の語句或は相似の文字にして其意義を異にするもの數千百を對照し一々懇切に其異同を辨じたるものにして新學に於て堪能の聞え高き佐藤仁之助先生の嚴密なる校補を經且つ同先生の新案に成れる便利なる假字用法及助詞語尾區別表を附したれば國語研究者の參考として有益無比の良書也

▲寸珍全一冊……壹百九十頁……定價拾五錢……郵稅貳錢  
▲假字用法及誤り易全一冊……此表のみ御入用の諸君には  
▲助詞語尾區別表全一冊……定價六錢郵稅八部迄貳錢也

文學士佐々醒雪君序

好評  
七版  
俳句講話

文學士沼波瓊音君著

文學士久保天隨君序

好評  
三版  
俳句研究

文學士沼波瓊音君著

高濱虛子君新著

近刊  
俳諧趣味

俳句は如何にして作るべきか、俳句は如何にして味ふべきか、抑も俳味なるものは果して那邊に存するや。本書は此等一切の問題に趣味饒き解案を與へ、以て乾燥せる現時の人心に一味の清風を點せんとす。何人と雖も案頭一本を缺くべからず。

▲小杉未醒君 裝幀 美裝全一冊……定價四十錢 郵稅六錢

本書は俳句の研究たると同時に、自然の研究也、美の研究也、又人生の趣味教育也。著者が筆鋒の觸るゝ所、物皆油然として俳趣を生ず。俳人たると然らざるとを問はず、一本を繕いて、津々たる十七字詩の美樂に醉へ。

▲俳句講話同裝……美本全一冊……定價四十錢……郵稅六錢

近時著述界の弊賣は、餅屋にして酒を傳り、酒屋にして菓子を賣ぎ、唯汲々として其賣上高の多からむ事のみ競ふの風が見える、であるから、實に富んだ趣味の豊かな、眞摯にして尙永な、好著の鮮いのも、無理はない處が本書は現今ホトトギス派俳壇の雄鎮として、多年新道の造詣深き虚子君が、其最専門とせらるゝ、俳諧趣味を脱かれたのであるから、天下此位適當した事業は、實に他にあるまいと思ふ。サツカリの交つた餅屋の菓子に胃腸を痛め、如何はしい瓶詰正宗に頭を悩めて御座る方々は、早く此餅屋の今坂、眞正銘の正宗を味つて俳趣味の醇雅な滋味に舌鼓を打ち給へ

▲袖珍全一冊……裝幀風雅……定價……郵稅

幸田露伴君著

好評  
三版  
小はるさめ集

◎本書の内容  
一口劍三篇。風流佛十二段。みれん五章。

本書收むる所の三卷、悉く之れ明治文學史上特筆筆記すべき希世の名作たるは世に定評あり。而かも刊本風に絶えて其得易からざるを憾みとし、乃ち先生に請うて合刻す。今や参版成る、文壇の欣望今日より完たからむ。

幸田露伴君著

好評  
三版  
潮待ち草

阪井紅兒君畫

▲大判全一冊：希有の美装：定價七十五錢：郵税八錢▼  
潮待ち草は露伴先生の隨筆也、自然觀也、人生觀也、はた社會百般の事物に對する觀察録也。詩を談じ、文を品し、史を論じ、處世を説きて、眞に他の企及すべからざる妙趣あり。以て品性修養の資とすべく、以て後進文を學ぶの範とすべし。附録「土偶木偶」の一篇も亦先生が近作小説中の白眉たるもの、敢て文藝を愛好するの士の清鑒を俟つ。

幸田露伴君新著

近刊  
頼朝

阪井紅兒君裝幀

▲大判全一冊：裝釘最優雅：定價八十五錢：郵税八錢▼  
英雄由來風流事に富む。而かも我「頼朝」の情話の如く波瀾、曲折の妙を極めたるは、蓋し罕なり。露伴先生風に頭大公が情の半面に心を潜めらる、と久しく、博參考證遂に斯の一篇を成す。燃ゆるが如き青春の戀に惱める英雄の傳は、當代の文豪が靈犀の詩筆に依つて讀者の眼前に躍如たらむ。當に之れ近時文壇の一大偉觀！

幸田露伴君著

好評  
再版  
註二日物語

沼田穎川君註

▲全二冊總クローズ：金文字入美装：定價四十錢：郵税四錢▼  
二日物語は露伴先生が、傑作中の翹楚たり。今其全文を引きて精到なる註釋を加ふ。此「一日」の何ぞ凄婉にして。「彼一日」の何ぞ悲惨なるや、渾身是れ詩の權化たる西行法師の心胸を活寫せし此一大名篇は、本書に依りて更に讀者と近親の便を加へたるものと稱すべし。

野口米次郎君著

好評  
三版  
邦日本米國日記

阪井紅兒君畫

▲大判全二冊：洋風美術的製本：定價七十五錢：郵税八錢▼  
日本、ノッケ君の「日本少女の米國日記」は、實に吾人同胞の、以て世界文壇に誇示すべき、一大珍世にあらざるや。而も原文は公意幽婉、舞文構想の妙を極たるを以て、歐文に精通せるの士を以てして、猶且つ解讀に苦しむもの夥なからざるは、眞に隔靴搔痒の嘆なくんばあらず。君また風之を感みとし、茲に自から邦文を以て本書を譯出せらる。拙婦窮蹙たるわが朝頗憊は、今や嬉然たる嬉笑を溢へて、讀書の面上に秋波を送りつつあるに非ずや。果して彼女と交歡の情を交ゆるの果報男や抑も誰ぞ？

秋元蘆風君譯

獨逸  
詩粹  
シルレル詩集

▲袖珍新形全一冊：挿畫七葉：定價四十錢：郵税四錢▼  
詩聖シルレルの傑作中、「ヘロー、レアンデル」以下著名なるもの八篇を採り、獨逸文學に精通せる秋元蘆風君が、傑作たる經營を費して、邦詩型に譯されたるもの、蘆風君の詩や、麗藻彬々として、氣韻頗る高く、眞に戀歌ひ、風舞ふの概あり、原詩の妙想と相俟つて、一讀恍惚たるの思ひあり。



外國語學 山口小太郎君序

刊新

研究 鐘の歌評釋

秋元蘆風君著

本書は獨の詩聖シルレルが、治工の大鐘を鑄るに擬して、  
幽玄微妙なる人生の奧秘を謳へる一大詩篇にして、詩聖  
が代表的の名作たるは已に定評あり。著者秋元蘆風君は  
シルレルの研究に於て造詣深き士、今茲其積年の蘊蓄  
を傾注して、本書を公にす。由來難解を以て稱せらるる  
「鐘の歌」も、君が透徹明快なる評釋によつて一讀及を  
迎へて釋くるの概あらん。苟も獨語の研鑽に係れる諸君  
は勿論、獨逸詩壇の明星たる千古の詩聖シルレルを解せ  
んと欲するの士は、亦必ず本書を一讀せざるべからず。  
▲洋裝全一冊：金文字入美裝：定價七十錢：郵稅八錢▼

在米國

茅原華山君著

高評 再版

世界 文明推移史論

本書は華を東北と九州に起し、日本海岸と太平洋岸諸國の論評より、亞細  
亞文明の東漸を論じては儒教と佛敎の批評となり、歐洲文明の西漸を論じ  
ては希臘羅馬の文明及基督敎の批判となり、歐洲の衰運、米國の勃興、日  
本文明の西漸を説きて朝鮮支那露國等の國俗民情に及び、博く地理學、史  
學、人類學等に亘り、歐亞兩文明が各東西に推移せし史上の事迹を詳論し  
て、日本の眞價及日本の世界に於ける關係的位置を發見し、以て我大和民  
族の天職の存する所を指點す、眞に吾人同胞を啓發すべき一大史論也。  
▲菊大判全一冊：貳百五十餘頁：定價五十錢：郵稅八錢▼

大日本催眠學會會長小野福平君著

催眠術治療精義

(大日本催眠學會藏版)

本書は、大日本催眠學會會長として、本邦催眠術研究家  
の先覺者たる小野福平先生が富饒なる學識と、多年の實  
験とを基礎とし、博く東西の學說を參酌して、筆を催眠  
術の原理を起し、心理学、生理學、醫學等の根底より催  
眠術を以て治療し得べき諸種の疾病の病理、症候、經過、  
療法等を説明せられたる催眠學界空前の大著にして催眠  
術研究者は、勿論、醫家經世家等の苟も看過すべからざ  
る良書也。  
▲菊大判全一冊：金文字入洋布美裝：定價五十錢：郵稅八錢▼

ドクトル富士川游君序

刊新

科學より見たる 男女の關係

前宮崎縣師範學校講師 澤田順次郎君著

本書は千古の一大鐵案にして、然かも亦千古の一大疑問たる、男女兩性の  
差異を研究し、冷靜なる科學の立脚地より、兩性が赤裸々の眞相を暴露し  
て、戀愛研究の必要を唱道し、男女各任務の分業、生殖の意義、色慾の害  
毒等を説きて、男女兩性を各其本分を自覺せしめ、以て頹敗せる現時  
の社會風教に一大痛棒を加ふ、男女孰れたるを問はず、必ず一讀の要ある  
快著也  
▲大判全一冊……密書數葉挿入……定價卅五錢……郵稅四錢▼

藤田長江君著

刊近

福澤翁言行錄

全一冊(印刷中)

十一月下旬發賣

白田石楠君著

刊新

西郷南洲言行錄

西郷南洲翁の人格は恰かも富嶽の秀麗なるが如く崇高  
也。其一言一行の如何に吾人を啓發し、發奮せしむるの  
深大なるや言を須ひず。此不出世の巨人が偉大なる感化  
力に觸れて以て、自己を鍛鍊し修養せんと欲するの士は  
乞ふ本書を繕いて再讀三讀する所あれ。  
▲大判全一冊……洋裝精美……定價六十錢……郵稅八錢▼

16/3/41

好評  
四版

### 加藤咄堂君著 人格之養成

夫れ大なる人格を有せざるもの、奚んぞ世に立つて光輝ある偉業を成就し得べけん。本書は著者が熱烈なる同情の筆を揮つて人とは何ぞやとの疑問を解決し、進んで人格の根柢を闡明して、常識の涵養、趣味の啓發、意志の鍛鍊等を説き、平凡を化して偉大ならしめ、懦弱を轉じて崇高ならしむ。眞に吾人が向上の新福音也。

▲菊判全一冊：體裁清雅：定價五十錢：郵稅六錢▼

再版

### 堀内新泉君著 人格と運命

あゝ運命の寵兒たるべきか、將た運命の繼兒として永く逆境に沈淪すべきか。懦夫は運命に盲從し、偉人は運命を自造す。天命是ならざるに非ず、唯自ら之を是ならしめざる而已。本書は日常實際の問題を基礎として、人格と運命との關係を詳叙し、干挫不屈の大精力を與へて、以て世に處するの新活法を説く、人格修養上速に一讀を要すべき好著也。

▲菊判全一冊：體裁高尚：定價五十錢：郵稅八錢▲

近刊

### 堀内新泉君著 時間の活用

「汝生命を惜しむか、然らば時を空費する勿れ、時は生命の原質なれば也」とは、是れ西哲の金言にあらずや。然り時の貴重なるは實に黄金如きの比にあらず、人生の榮辱、事業の成否、係りて時間活用の巧拙如何に在り。本書の吾人人類を益する眞に甚大なるものあらん。此書を精くこと一分時を後れらるゝの諸君は、遂に千秋悔ゆるも及ばざるの損失を招き給はんや疑ひを容れず。

▲洋裝全一冊：體裁……定價……郵稅……▲

近刊

### 加藤咄堂君新著 雄辯法

加藤咄堂君の演壇に立つ事、茲に二十餘年、今は君の大名を耳にする者、倏忽として我が波瀾抑揚に富める雄辯の辯と、莊重にして一種人をして感奮せしめずんば已まざるの聲響とを聯想せざる者なし、君の如きは遂に雄辯術の神に入れる者と稱すべし。本書は君が其多年の實踐と修辭學、聲學、學等の原則を基礎として、思想排列法、言語操持法、演說組立法、聲響使用法、演說の態度、發聲の心得等に亘り演說、講義、座談等の要訣を詳述せられたるもの。君にして雄辯法を説く、以て其聲譽の俗世に非ざるを知るべし、苟くも志を當世に存するの士は、速かに本書を精いて、文明的思想演藝術の真利益を享受し給はんことを。

▲大判全一冊……二百餘頁……定價五十錢……郵稅八錢▼

近刊

### 漆山又四郎君著 腦力養成法

文明の競争は智力の競争也。詩人たり、學者たり、學生たり、教育家たり、事務家たり、實業家たるとに論なく、優勝劣敗の岐るゝ所、一に腦力の強弱如何に關す。腦力の養成豈忽緒に附すべけんや。著者漆山君は刀圭の學に於て造詣深きの士、近者世人の腦神經衰弱其他腦の諸症に關する者多きを慨し、其積年の蘊蓄を傾注して、生理學、醫學等の根柢より、腦力の使用法、睡眠時間長短の得失、有効なる腦の休養法、腦力増進の原理方法等を説き、進んで諸種の腦病の治療法を詳示せらる。而かも文辭暢達、之を行るに首肯一致を以てし、多大の興味を以て讀了せしむるの妙あるは、更に本書の特色とする所也。何種の職業たるを問はず、苟くも競走場程の優勝者たらんと欲するの士は、必ず一體の勞を奮むべからず。

▲洋裝全一冊……總振假名付……定價……郵稅……▲

新刊

### 洪嶽釋宗演師贊語 渡邊無邊俠禪題詞 禪と活動

古來英雄豪傑の、克く死生の巻に出入して、尙且つ泰然として所謂電光影裏斬春風一底の大勇斷を能くし得るもの、悉く之れ禪機より得來れる鍛鍊の結果に外ならず。宜矣近時軍人政治家等の參禪工夫する者日に多きを加ふるもや。本書は禪の活機を悟得して、之を活社會の人事百般に應用するの道を示し、假令百難蟻集すと雖も、獅子吼一番、克く奮直に進前して迷途するなきの大膽力を養成せしむ。與奪維極、生死透脫の大自在境に安住して、以て欲する所を行ひ、志す所を送げんと欲するの士よ、乞ふ活眼を開いて此活書を讀め。

▲洋裝全一冊……休裁活潑……定價四十五錢……郵稅六錢▼

### 破魔禪君著

文學士沼波瓊音君閱  
再版  
俳味禪味  
四海庵宮垣角人君著

俳味とは如何？ 禪味とは如何！ 蓋禪味を解するの士にして亦始めて眞の俳味を談すべし。本書は俳禪芭蕉によりて建設せられ、鼓吹せられたる俳味禪味の眞髓を明にして、「寂」趣味の福音を宣傳し、極端なる物質萬能主義に茶毒せられたる現時の人心に一大覺醒を與へ、以て虚飾を去りて簡易に就かしめ、枯淡の生活をして趣味を生せしむ。近時思想界の革新命兒たり。  
▲小杉未醒君裝幀……全一冊頗風雅……定價四十錢……郵稅四錢▼

讀賣新聞記者  
近刊  
漢詩講話  
附漢詩と俳句  
柳塘僊史君著

漢詩は日本文學の根柢である、古來から文章でも、和歌でも、俳句でも、悉く漢詩の有力な影響を被らぬものは少しも無い。殊に俳句の如きは性質上漢詩の日本化したものと云ふても差支へない、と云はれるのが柳塘僊史君の持論である。漢詩とは如何なるもので、如何にして之を作り、且つ味ふべきものであるかとの問題を多趣多方面に解釋して、興味の中に實益を與へ、漢詩と云ふ一問題の下に文學全體を知らしめると云ふのが即ち本書の特色である。  
▲洋裝全一冊……體裁瀟灑……定價四十錢……郵稅六錢▼

新刊  
楓村居士君著  
椿俠雄錄

俠雄の豪快なる、佳人の悲壯なる、春夜の密談は蜜の如く、雪夜の情話に清きと水に似たり、巨賊あり、怪窟あり、男が女か得て解すべからざるは小蓮にあらずや、毒婦の奸譎、悪吏の陰忍、嗚呼危い哉東洋の老友邦！龍岡虎搏の活劇場裡に清國內地の珍習奇俗を知悉せしむるは楓村居士が蹈遊の實寫生帖也  
▲阪井紅兒君畫大判全一冊……定價六十錢……郵稅八錢▼

新刊  
高濱虚子君著  
寒川嶺骨  
新寫生文  
坂本四方太君著  
長塚節

●本書の内容  
夢の如し 四方太 歸省雜事 嶺骨 佐渡が島節 叡山詣 虚子。本書は、現今文壇の異彩として、一前記の四君が、代表的作品各一篇を選み、成申文壇の中心たる新紀元を劃せられたるものにして、近時文壇の一大潮流を知らんと欲する士の看過すべからざる名著也。  
▲全一冊紙質佳良……體裁瀟灑……定價五十錢……郵稅六錢▼

近刊  
東亞堂編輯所編  
最近學校案内

全一冊(印刷中)

近刊  
陸軍教授藤田外次郎君閱  
最新科學講話

全一冊(印刷中)

京華中學  
校講師鹿田久村君編

# 東亞堂へ書籍を註の便益

東亞堂

は郵便振替貯金に加入仕居候間、御註文の節は送料、郵便料、書留  
さる御便利有之候、葉書或は電話にて、御註文の書名、著者の姓名、冊數等御  
申越被下候へば、直に現品の有無、及其代價郵税、並に御送金の手續等に關  
する委細の說明書御送附申上候

東亞堂

は自店出版の書籍の外、各出版元と特約の上、博く内外の  
販賣致し候間、何種書籍、如何なる書店發刊の圖書を不同、陸續御註文奉願  
上候

東亞堂

は品切れ、又は自店に持合せなき品と雖も、御註文の節は諸方搜索、能ふ限り  
御便宜を圖り可申候間、何品に不拘御註文奉願上候

東亞堂

は書籍に關する讀者各位の御問合せに對しては、極めて懇切に、又迅速に御  
回答申上候間、必ず返信用郵券を添へ御照會被下度候

東亞堂

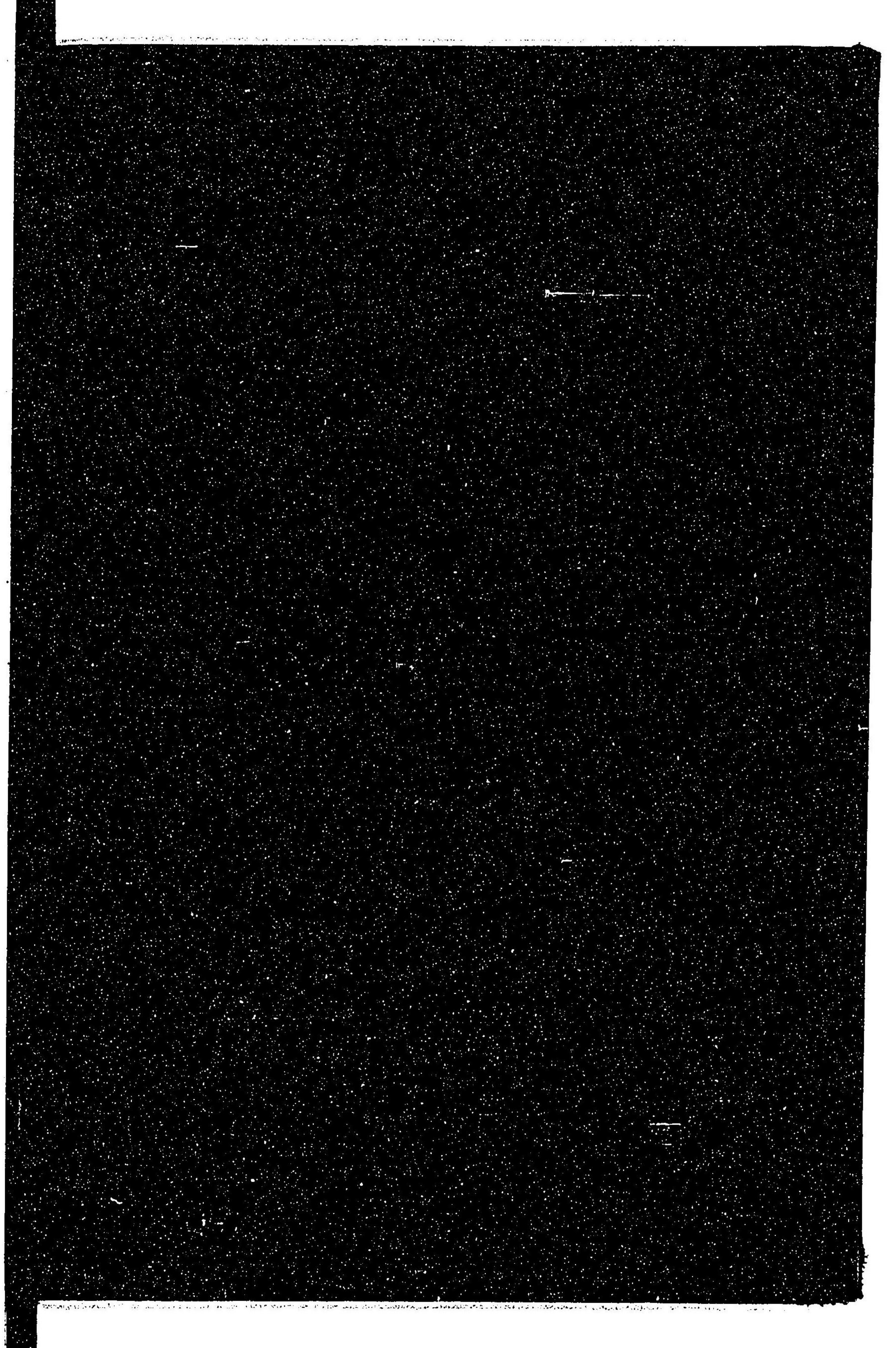
は御註文品は多少に不拘、其都度敏速に發送仕候間、代價税郵共、必ず前金を  
添へ(郵便爲替なれば本郷一丁目郵便取扱所渡りに、郵券代用なれば一割増に  
て)御送附被下度候

東亞堂

は更に出版部奮て良書を發行致し、益々讀者界に貢獻仕度と致意  
を披張の上、偏に奉懇願候

# 東亞堂へ書籍を註の便益

324  
67



324  
67

019632-000-6

324-67

禅と修養

釈 悟庵 / 著

M41.1

ABG-0412



